



本局
海軍

414
A 273



明治十年五月廿九日
大臣
多々後

本局
奉
寄

大正十一年四月
限
侯爵
寄贈

ハラルト抄訳 五月廿八日刊行

黒田参議ノ評

本月中官兵ハ賊徒ニ向テ一度モ勝利ヲ得シナレ夫
ノ島津久光ハ明カニ賊徒ニ與セレト思ハレ其甥島津
左衛門モ現ニ賊軍ノ巨魁ト為リ兵數ハ嚮キニ始メテ
出陣セシ時ヨリ二倍ノ多キヲ加ヘタリ去レハ氣早キ
人々ハ稍々疑心ヲ生シ彼ノ黒田氏ハ熊本連絡ノ後最早
格別ノ事モアルマゾト云ヒテ大ニ政府ヲ欺キシナ
リト云フ者アリ又殊ニ此豪傑(黒田氏)ヲ信仰スル輩
アリテ云フ同氏ハ百事皆西郷隆盛ト信謀シ曩キニ同氏ガ



戰場ニ臨ミタル事ノ如キハ預テ詰合セシモ人ト思ハ
レタリト

行在所ヲ下ノ関ニ移サルノ話

九州ノ事件急速平定シ難キ様子ナレハ東京還幸ヲ暫
ク見合セ行在所ヲ下ノ関ニ移サルベシト云

五百ノ巡查賊ノ謀計ニ陥リシ説

官軍ノ日向ニ在ル者ハ固トヨリ地理ニ暗ク賊徒ハ我
カ生國ト云ヒ又ハ鄰國ニシテ能ク按内ヲ知りタル故
毎度之レニ苦ノラシム、一多シ既ニ過日モ西郷ノ末身
ガ石岩^{イシイワ}ト云ヘル所ニ屯シ官兵ノ通行スベキ洞道ノ
口ニ野戦砲二門ヲ備ヘテ待ナシヲ知ラス五百名ノ巡
査此ニ至リテ遂ニ此謀計ニ陥リ或ハ死シ或ハ擄トナ
リ一人モ遁レ来リシ者ナレト云斯ノ如クナレバ官軍

モ嚮キニ日向及ヒ熊本ニ進入スル前ノ如キ勢力ヲ失
ヒタリト云フモ無理ナラス

